

TAKE FREE

# 全ての『お母好き』ファンのための情報誌

# ま ま く ら ぶ

石谷春貴×茅野愛衣  
スペシャル対談!

『通常攻撃が全体攻撃で二回攻撃のお母さんは好きですか?』って、こんなお話!

創刊号  
2019.6  
vol.1

キャラクター紹介 Part1

真々子さんの  
子女自慢♪

通常攻撃が  
全体攻撃で  
二回攻撃の

お母さんは好きですか?

好評発売中!



原作小説1~8巻  
著:井中だちま/イラスト:飯田ばち。

ヤングエースUPにて連載中!  
コミックス1~2巻

漫画:冥茶/原作:井中だちま  
キャラクター原案:飯田ばち。

# 7月12日(金)放送開始!

- TOKYO MX・BS11・とちぎテレビ・群馬テレビ:7月12日より毎週金曜24:00~
- 毎日放送:7月14日より毎週土曜27:38~※初回放送のみ日曜日放送となります。
- テレビ愛知:7月16日より毎週火曜26:05~

【スタッフ】

原作:井中だちま(ファンタジア文庫/株式会社KADOKAWA)/原作イラスト:飯田ばち。/監督:岩崎良明

キャラクターデザイン:八重櫻洋平/シリーズ構成:赤尾でこ/音楽:井内啓二/アニメーション制作:J.C.STAFF

【キャスト】

大好真々子:茅野愛衣/大好真人:石谷春貴/マイズ:鈴代紗弓/ボータ:原田彩楓/メディ:Lynn/白瀬:新井里美

©2019 井中だちま・飯田ばち。/株式会社KADOKAWA/お母さんは好きですか?製作委員会

『通常攻撃が全体攻撃で二回攻撃のお母さんは好きですか?』って、こんなお話!



『通常攻撃が全体攻撃で二回攻撃のお母さんは好きですか?』(通称『お母好き』)は、井中だちま著・イラスト飯田ばちによるライトノベル(富士見ファンタジア文庫・KADOKAWA刊)が原作。

普通の男子高校生の大好真人は、文字通りゲーム内に入りプレイするMMO-RPGのテストプレイヤーに選ばれて、夢に見たゲームの世界へ!ところが、彼の母親・真々子さんもなぜか一緒にいて、真人はビックリ。

息子を「マー君♥」と呼んでスキンシップするような、見た目も可愛い真々子さんは、この世界では「通常攻撃が全体攻撃で二回攻撃」とチート級の強さ。それに比べて真人の攻撃力はごく普通で、健全に親離れ進行中の彼としては、異世界冒険で颶夷活躍のイメージが台無しもいいところ。それもそのはず、これは「MMMMMORPG」という「ママの、ママによる、ママのための、ママと、息子もしくは娘が、大いに仲良くなるための、ロールプレイングゲーム」だったのです!そんな状況に真人はガッカリしながらも、母親と一緒に冒險することになりました。

仲間集めのための「お母さん面接」を経て、大好親子と行動をともにすることになったのが、健気で愛らしい小さな女の子・ボータ。旅商人である彼女はアイテム作りや鑑定などに秀でた子です。そしてもう1人は、魔法に長けた賢者の少女・マイズ。ちょっと残念思考と



高飛車な性格なので玉に瑕?そして運営側の女性・白瀬がときどき現れては、お寒いボケを……もといクエストのお知らせや攻略ヒントをくれるのでした。  
かくして、母親同伴・異世界冒険のはじまりはじまり。

## キャラクター紹介 Part1

●茅野さん演じる真々子さんと石谷さん演じる真人って、どんなキャラクター?



### 真々子さんの子女自慢♪その1〈大好き!マー君〉

『お母好き』のキャラクターのポイントを、真々子さんが語っちゃうシリーズ。1回目は、やっぱりマー君こと真人!



マー君の良いところ……もちろん、全部よ。だって「マー君」なんすもの。え?「それじゃあ、チェックになります。具体的にお願いします?」あらあら、だったら……例え、モンスターさんが現れた時。一生懸命戦おうとしてくれるところを見ると、カッコいいわ、マー君素敵って、すごく思うの。あとゲームのこともう。私が良く知らないところを、よく知っているから、とても頼りになるわ。

それと、このMがいっぱいしているゲームの世界に来る前は、なんだか素っ気な

い態度を取ることが多くて、お母さん寂しいわって、思っていたけど、今は色々なお話をしてくれるようになって、とっても嬉しい。一緒に冒險していると、親子で以心伝心することも多くて、すごく幸せ(ニコニコ)。……ただね、私が「大好きなマー君のために!」って張り切ると、マー君が、すごく困った顔をしちゃうの。どうしてかしら(きょん)

でもとにかく、マー君は本当に素敵で、とっても良い子なんです♥



ままくらぶ

創刊号 2019.6 vol.1

発行所:お母さんは好きですか?製作委員会  
編集担当:ほろり春草(スタジオ春草) デザイン:KOBI

NOT FOR SALE

880088008800



## 『お母好き』親子面談 - 第1回 - 石谷春貴×茅野愛衣

『お母好き』キャスト同士のスペシャル対談。第1回はもちろん、真々子さん＆真人役のお二人！ 真々子さんや真人の魅力や共感出来るところを、いっぱい語ってもらいましょう。

**タイトルは、早口言葉みたい？**

——『通常攻撃が全体攻撃で二回攻撃のお母さんは好きですか？』というタイトルを初めて聞いた時の印象は？

茅野 最初に作品に触れたのは原作のCM収録だったんですけど、あまりに長くて「それがタイトルなんですか？」って確認してしまいました（笑）。CMは、限られた短い時間にきちんと言う必要があるので「どうで区切って言えばいいですか？」と訊いたら、「一息でお願いします」って（笑）。

——この長さで一息だと、早口言葉感がありますね。

茅野 確かに言われると早口言葉感がありますね！ 韻を踏んでる感じとか。

石谷 そうですね。「攻撃」がテンポ良く3回あって（笑）。

茅野 でも意外と「攻撃」って言いづらいんですよ。

二人（声を揃えて）「通常攻撃・ガ、全体攻撃・で、二回攻撃・の」

茅野 これをサラッと言うのが、最初は難しかったです。さすがに今はだいぶ慣れましたけど（笑）。その後、応募して下さったファンの方のお名前を呼んで元気づけるメッセージの企画などもあったので、色々と面白い試みをする作品だなっていう印象も持っていました。ついにアニメ化が決まって、また関わることが出来てすごく嬉しかったです。同時に「一体どんな映像になるんだろう？」っていうドキドキもありました。

——作品についての印象は？

茅野 やっぱり真々子さんが剣を初めて手にしてモンスターをやっつけるくだりが出た時に、「なるほど！ タイトルはここからきてたのか～！」って納得しました（笑）。原作を読んでいない方はきっと、このタイトルってどこから来てるんだろう？と思うかもしれません、割と早い段階でタイトルの謎は明かれます。

石谷 そうですね（笑）。僕は作品の名前自体は、茅野さんがやっていたCMで知ってましたが、タイトル名を15秒に收めるのは大変そうだなあと（笑）。

茅野 長いからね～。

——ストーリーの印象はどうですか？

石谷 タイトルから、お母さんの話なんだらうというのはあったんですけど、普通にゲーム好きな男子高校生が

だで真人は律儀なんですね。

茅野 それに優しいよね。人のことを放っておけないから。

石谷 そこは、隣に真々子さんがいることも大きいと思うんです。

茅野 育った家庭環境もあるかもね。だから真々子さんが一緒に居なくても、そうなっていそうな気もするけど。

石谷 確かに。でも根底に真々子さんがいるからこそ、そういう風に行動出来るっていうのも、物語の中では大きいと思うんです。母親に「背中を押してもらう」ではないですけど。どっちにしても、まだ真々子さんがいることで成長の余地があるキャラクターなんだなと思います。1人でも成長は出来ると思うんですけど、真々子さんと一緒にいることで、別の輝きが見えるキャラクターというのを、演じながら感じています。

——そこはやはり「親子」という関係なんですね。

石谷 真々子さんは劇中で色々な恰好をするんですけど、真人は息子としてちゃんといちいちショックを受けるんですけど（笑）。

茅野 あははは（笑）。確かに！ なんだかリアクション芸人みたい。

石谷 「マジ、勘弁してよお～！」って（笑）。

茅野 思春期の男の子たちは、ああいう気持ち分かるのかな？

石谷 分かると思いますよ。

茅野 実際に自分のお母さんが真々子さんみたいな、コスプレちっくな恰好をしたとしたら、みんな真人みたいな気持ちになるのかしら？

石谷 参観日に母親が妙に気合いを入れて派手な格好したり香水をバンバンつけてきたりすると、たぶんあんな感じにはなります。「ちょっと待てよ！」って、こっちが恥ずかしくなっちゃうっていう（笑）。

茅野 じゃあ、あの「うわあ～！」って気持ち、男性なら誰しも分かるのね。

石谷 分かるところがあります。

——思春期の少年としては、そもそも母親と一緒に冒険しなきゃいけない段階で、「勘弁して欲しい！」ってなります（笑）。

茅野 あははは（笑）。

石谷 そう。だって、どんなに恰好つけようとしても、母親は恥ずかしいところも含めて何もかも知ってるわけですから。だから真人みたいな状況は、キツイです。僕だったら無理です（笑）。

茅野 うんうん。

石谷 そこは真人と完全に同じ気持ちでした（笑）。

茅野 そう考えると、マー君はすごいね！

石谷 なんだかんだでずっと「しようが無いなあ」って、笑って付き合ってるから、真人は間違なく母親が好きだろうな、とか。

石谷 確かに確かに！（笑）

茅野 そこは、優しいお母さんなので（笑）。そんなにハードな雰囲気のセリフ自体ないんですけど、それでも攻撃技を出す際の一聲はあって。それが「え～い♪」ってほんわかした感じなんですね。その言い方がやる気なさそうに聞こえないか、すごく心配でした。

石谷 真人は「行くぞ！」って気合い入れてるので。

茅野 そう。なんだか魔法少女もののヒロインが、魔法のステッキを振ってるような感覚なので、どう戦う雰囲気を出そうか悩みました。

思春期の男の子なら、絶対分かる真人の気持ち

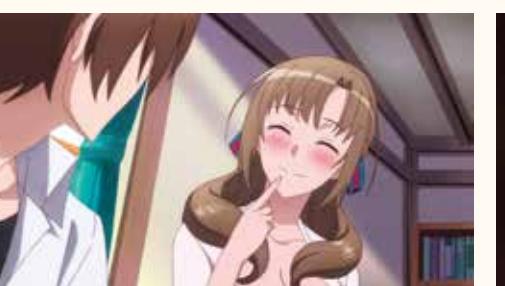
——演じる上で意識されていることは？

石谷 僕は、真人の年齢相応に迷っている感じを大事にしたいということがあります。「ちょっと待てよ！ 母さん！」っていうシーンが良くあるんです。「俺も活躍したいのに、全部見せ場取られちゃってどうしたら良いだろ？」って、「親の手助けはなくて大丈夫なのに」っていう気持ちは、思春期の頃って結構あると思うんです。そういった「困惑」が見えるように。とはいって、その「困惑」を出し過ぎない。それとお母さんを本当にちゃんと「肉親」として見ることが徹底されているので、少年が成長していく中で、「異性に対する」のとは違う形で「男として母親に向かう」部分を出していけたらと思ってます。それからツッコミです（笑）。

茅野 うん！（笑）

石谷 基本的に真人以外はみんなボケキャラなので、こっちがボケに回ることがなくて……（笑）。なんだかん

茅野 真々子さんって、なんとなく耳かきの  
梵天のイメージがあります



だと思います。

——真々子さんを演じる上で気をつけていることは？

茅野 真々子さんは完璧なんです。真々子さんは本当に真々子さん以外何物でもなくて。国民的マスコットみたいに、「真々子さん」という存在がいるような感じなんですよ。だからあんまりブレがなくて。すごくふんわりと柔らかいイメージなんですけど、でもすごく1本芯の通った人だなって私は感じています。あまり周囲に振り回されていないんです。なので、演じる中でもっと遊びを入れたい部分もあるんですけど、そこはグッと我慢して……。周りは、遊びを入れられるキャラクターばかりなので。

石谷 うんうん、そうですね（笑）。

茅野 出来るだけ一番真々子さんらしいテンションでいるように心掛けています。そういう形でいることによつて、周りのみんなにも良い影響だったり、光る場所があればいいなあと考えながら演じています。真々子さんが行動を起こすことで、周りの人に良いことがいっぱい起きるんですけど、あまり過剰にしたくないと思っていて。もう存在自体がチート感があるので（笑）。だから、そこまで過剰にせずに、真々子さんなりの自然体でいたいなあと思っています。

——「真々子さんらしいテンション」というのは？

茅野 例えば、怒っても「～でしょ！」とキツく相手に押しつけないんです。実際、怒る時は静かに怒るので。実は振れ幅が少ない感じなんです。その中に喜怒哀楽を伝えていくことが、求められるスキルなのかなと思っていて、そこがすごく難しいとも感じます。……私としては「球体の中にいる」イメージで演じたいなって。

——「球体の中」？

茅野 言葉にするのは難しいんですけど。丸い中に収まるように、どう真々子さんのお芝居をやっていくかかなって意識しています。

石谷 変に出て張ってるところはないですよね。

茅野 「丸い」は、包容力とかにも通じるところなのかなと思います。本当に、すごく抽象的なイメージの話なんですが。そんな感じで、真々子さんのお芝居をしています。

真々子さんは、天然なところも含めて「完璧」

——石谷さんは眞人に、相当共感されてるようですね。

石谷 ええ。お母さんへの敬愛の気持ちにしても「勘弁して～」っていう気持ちにしても！ どちらもです。すっかり成人した今の年齢になったことで、ようやく母親への感謝の気持ちが始めた部分が大きいので、高校生ですでにそうした母親への気持ちを持っている真人を、それが分かった今の年齢で演じられるのは、すごく大きいことだなと思っています。真人を演じたことで、僕自身変わったところもありますし。ちょうど、親や兄弟とも頻繁に連絡を取るようになり始めた時期だったので。母にお歳暮を贈るようになりました。

茅野 その話をアフレコ現場で聞いた時、イイ子だな！って思いました。

石谷 劇中の眞人の言動には「ああ、自分にもあった！ こういう時期」って思います。僕はもう母親と話すのさえ嫌！ っていうくらいに反抗期が激しかったので。真人を見ていると、その頃の自分の母親に申し訳なかつたなって。

茅野 ヘエ～！ 私は特に反抗期はなかったから……。今もお母さんと過ごす時間が一番多い気がします。一緒に食事に行くことも普通にしてます。

——真々子さんに共感出来るところは？

茅野 共感出来るという意味では、マー君を心配しちゃう……お世話を焼いてしまうのは分かる気がします。私も、人が困っている話を聞くと、大丈夫かな？ その後どうなったかな？って気になってしまふ方なので。



——茅野さんから見て石谷さんと眞人の似ているところは？

茅野 石谷くんは眞人とは全然違うんですけど、養成所の後輩で、デビュー当時から知っているので、なんとなく眞々子さんの目線で見てしまうっていうのはありますね（笑）。そういう部分で私の中で、マー君とリンクする部分はあるのかなって思います。

石谷 茅野さんも真々子さんも、こちらに「委ねてくれる」部分があります。演技的なところも含めて、「あなたのやりたい方向でやって」という向き合い方をして下さるので、ぶつかっていく覚悟でやっていくんです。そんな関係性は共通する部分じゃないかなって思います。

——真々子さんのこういうところに「癒やしを感じる」みたいなところは？

茅野 なんとなく耳かきのイメージがあります。梵天のついた耳かきで、真々子さんなあって感じがします（笑）。

石谷 あはは！（笑）確かにポワポワしてて。

茅野 あ、だから私、真々子さんに球体のイメージがあるのかもしれない！

——先ほどの話と繋がった！（笑）

茅野 球体のイメージは、それでした。巧く水分も吸い込むし、心地よくしてくれるところとか。癒やされるところも含めて、そういう耳かき的なイメージなのかもしれません。

石谷 真々子さんの癒やされるところかぁ……。否定しないところですかね？

茅野 うん。まずは見守ってくれるよね。それで促してくれるような。でも異世界に行ったら、割とはしゃいでいたけど（笑）。そういう子供っぽい遊び心があるのも含めて、真々子さんの良さのかなと思います。先ほど「完璧」と言いましたけど、そういう意味では完璧すぎない抜けた面があるのが、真々子さんの可愛らしさかもしれない。

茅野 「丸い」は、包容力とかにも通じるところなのかなと思います。本当に、すごく抽象的なイメージの話なんですが。そんな感じで、真々子さんのお芝居をしています。

——そういう人間的な柔らかさも含めて「完全無欠」ということですね。

茅野 そうですね。物理的に強いだけじゃないところが、私が思う「完璧」に繋がってるんだろうなって、今話をしていてしつこく来ました（笑）。

石谷 この作品にも女の子のキャラが色々出てきますが、真々子さんは完全に別格なんですよ。だからこそその強さもありますし。「みんなが愛するヒロイン」じゃなくて「みんなを愛するヒロイン」ですから。

——仲間になるワизやボータのことも等しく「好き」ですもんね。

茅野 本当にそうだと思います！



真人の言動には  
「自分にもあった！ こうじう時期」って思います

毎週「母の日」という感じで覗て欲しい！

——お二人が真々子さんにしてもらいたいことは？

茅野 やっぱり料理でしょうか。

石谷 ご飯作って欲しいです！ 僕もそれです。

茅野 朝ご飯のシーンとかを見ていると、真々子さんのご飯が食べたいって思います。特に、ご飯とお味噌汁のついた和風の定食とか。

石谷 第1話ではハンバーグを作りますよね。

茅野 あ、ハンバーグも良い！

石谷 肉じゃががとも作って欲しい。

茅野 肉じゃがも良い！ 本編でも料理をするシーンが多いんですよ。なので真々子さんが作る、普通の家庭料理が食べてみたいなって思います。

——このアニメの一番の見どころを、お聞かせください。

石谷 見どころはもう色々あるんですけど、疲れたっていう見てももらいたいです。

茅野 それこそ、耳かき代わりにね！（笑）

石谷 なんだか疲れたなって時に覗てもらって、ああ面白かった！って感じで布団に入って、夢の中でお母さんと異世界の冒險をして欲しいですね（笑）。

茅野 それはいいかも。やっぱ見どころはお母さんかな？（笑）自分のお母さんや家族のことを想うみたいに深く捉えなきでも、軽~い感じで楽しんでもらえたなら嬉しいです。観終わった後に、お母さんと仲良く過ごす夢を見てももらえたより良いですね。

——放送日は、毎週「母の日」みたいに思って欲しいと？

石谷 そうですね！

茅野 このアニメが、みなさんのお母さんに感謝の言葉を伝える機会になったら嬉しいです。

